

## 第55回中学生作文コンクール

都道府県別賞一等

おじいちゃんのトマト

和歌山県 海南市立亀川中学校 二学年

相谷 胡真智

真っ赤なトマト。水を浴び、光を浴びて、すくすくと育っている。私が学校から帰ると、その赤いトマトがおかえりと言うようにつややかな実を見せた。

「ただいまあ！」

「おう！おかえりい。」

野菜に水をやりながら、おじいちゃんは嬉しそうに笑った。

私の学校のすぐ近くには、おじいちゃんとおばあちゃんが住む家がある。私はよく学校が終わると、その家に寄ってアイスをもらおう。二人とも、私が帰ると嬉しそうにむかえてくれる。私はその笑顔が大好きなのだ。おじいちゃんは花や野菜を育てていて、今年で七十歳になったけれど、まだまだ元気いっぱいだ。でも、そんなおじいちゃんが七年前の三月、心筋梗塞におそわれた。急に倒れてしまい、すぐに救急車で運ばれ、約二カ月入院生活を送ることになったのだ。今、おじいちゃんは元気だけど、それでもまだ心筋梗塞の薬はいつ何がおこっても良いように肌身離さず持っている。おじいちゃんはそのときのことを、

「保険に入っていたから、お金の負担もなくて、本当に良かったんだよ。」

と言っていた。保険、と聞いてもあまりピンとこなかった私だけど、おじいちゃん、おばあちゃんから色々話を聞いて、保険はどれほど大切なのか、保険に入っていなかったらどうなっていたのか、本当に多くを学ぶことができた。

「今ではガン保険に入っても、もしガンになっても大丈夫なように備えてるんだよ。」

絶対にガンになる、とは言いきれないけれど、そうやって備えておくのと備えないのではやっぱり全然違うんだと思う。実際に保険で救われたおじいちゃんが語ると、とても深く考えさせられるのだ。

こうやって話を聞いて、おじいちゃんが多くの人に助けられていることが分かった。今、おじいちゃんは元気に生活を送っている。

## 第55回中学生作文コンクール

保険に助けられ、多くの人に力をもらって。そんなふうによくの人から優しさを、愛情を受けとって、それを私にもくれているのだ。  
私の優しい大好きなおじいちゃん、今日も笑顔で、元気にみんなへ優しさをふりまいている。だから、おじいちゃんのトマトはこんなに甘くておいしいのだ。